

(様式6)

浅川大地氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Characteristics of counter-movements in sport climbing: A comparison between experienced climbers and beginners
(スポーツクライミングにおけるカウンタームーブの特性：経験者と初心者の比較)
The Journal of Physical Therapy Science, (in press)
Daichi Asakawa, Masaaki Sakamoto

論文の要旨及び判定理由

スポーツクライミングでは競技特有のムーブを利用する。カウンタームーブは下肢を対側方向へ移動し、上肢のリーチに対してカウンターバランスをとるような動作である。本競技では上肢の外傷・障害が多いと報告されているが、本競技動作に関連した報告は少なく、障害と動作要因との関連は明確でない。本研究は、経験者と初心者における基本的なムーブの相違からその動作特性について明らかにすることを目的とした。対象は1年以上の経験者、経験が5回未満の初心者であった。カウンタームーブは5相に分類し、デジタルカメラ2台で前額面、矢状面より撮影し解析した。反射マーカを各部位に貼付し、各関節角度を算出し、L3を身体重心の投影点(COG)として上下・左右移動幅、総移動距離、移動速度、動作時間を算出した。結果、COGにおいて経験者が初心者より有意に大きな左右移動幅を示した。初心者は支持側上肢の肩屈曲・外転は小さく、肘の屈曲が大きく、支持側下肢における股関節の屈曲・外転、膝の屈曲が小さい傾向が示された。故に初心者では肘屈曲位でホールドを把持する時間が長く、前腕筋への負荷が大きいことが推察された。

本研究により、スポーツクライミングにおける動作特性の一部を明らかにすることができ、今後の外傷・障害予防、パフォーマンス向上のための基礎資料を得ることができたと認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(平成31年1月29日)

審査委員

主査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 久田剛志 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 臼田滋 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 渡邊秀臣 印

参考論文

1. Retrospective survey of sport climbing injuries and self-care in Gunma prefecture
(群馬県におけるスポーツクライミング外傷・障害とセルフケアに関する後方視的調査)
The Journal of Physical Therapy Science, (in press)
Asakawa D, Sakamoto M

(様式6, 2頁目)

最終試験の結果の要旨

本研究の今後の発展性について、スポーツクライミングにおける外傷・障害の予防について、およびスポーツクライミングに役立つ筋力トレーニングについて試問し満足すべき解答を得た。

(平成31年1月29日)

試験委員

主査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	久 田 剛 志	印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	臼 田 滋	印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	渡 邊 秀 臣	印

試験科目

本研究の今後の発展性について	合
スポーツクライミングにおける外傷・障害の予防について	合
スポーツクライミングに役立つ筋力トレーニングについて	合